

武庫川女大家政 粟屋 秋子

○谷井加代子

1. 人体の横断測定をすることにより、立体感と体型の個人差を理解し、横断面から衣服構成上に必要な手がかりを求めるために、二・三の考察を試みた。

2. 資料は 1969 年～1970 年に行った 18～22 才の女子大生 120 人の身体計測値による。研究項目は、身長・頸椎高・肩峰高・乳頭高・胴高・臍高・右前上腸骨棘高・肩峰幅・乳頭間幅・胸部横径・胴部横径・腰部横径・胸部矢状径・胴部矢状径・腰部矢状径・頸付根囲・乳頭位胸囲・胴囲・腰囲・体重の 20 項目を基礎資料とし、そのうち 32 人を選定して脊柱彎曲と軀幹部の横断測定を行った。計測部位は、頸椎点・頸側点・胸骨上点・肩先点・肩甲棘点・肩甲骨下角点・乳房上部位点・乳頭点・乳房直下部位点・胴高・臍高・腰囲の計測部位の高さの位置において、sliding gauge A 型(四方ねじ上げ式)を使用して横断体型を求めた。

3. 横断体型を重ね、復元して観察した結果、頸部は

前方に傾斜し、その角度が胸部前、後面の体型の基点となる。頭の旋回運動では、胸鎖乳突筋が張り出して変形する。肩部は横径、矢状径、その指数値により比較した結果、個人差が大である。胸部は、胸骨、乳房、後正中溝、肩甲骨の形態により個人差が著しい。上肢の運動では、肩甲骨の運動量のため、側面へ変形する。腹部、腰部は、肥満と瘦身体型が最も明かに現われ、下肢の運動による腰部の変形は少い。